藤屋侃士
（下松市幸ケ丘）

ラウンジの極上サービス
～ファーストクラスを体験（下）

機内はファーストクラス、ビジネスクラス、エコノミークラスに区分されていることが多い。それに付加価値をつけてくれるのがラウンジ（待合室）である。

飛行機は新幹線などと違い、空港に着いて出発までの時間が長い。ファーストクラスやビジネスには特別ラウンジがあり、ここでゆったりとした気分で無料の飲み物や軽食を取る時間が好きだ。

一口にラウンジといっても、福岡のような地方空港のものから今回利用したフランクフルト国際空港のファーストクラス専用ラウンジまでいろいろある。

事前に読んだ「航空旅行」という雑誌のファーストクラス特集号には「極上のサービス」という表現で、各空港のラウンジが紹介されている。フランクフルトの専用ラウンジは最高級ホテルのロビーのようで、バスルームや仮眠室、高級レストラン（無料）などもある。

専用ラウンジは最高級ホテルのロビーのようだ

私が好印象を持ったのは、豪華さもさることながら、エコノミーのチケットの娘たちも入れてくれたことだ。往路の羽田空港のビジネスのラウンジには当然ながら入れてくれなかった。後でわかったことだが、ファーストクラスのラウンジにはサービスとして乗客のほかに見送り客などを一人、ゲストとして入れてくれる。

とにかく、予期せぬことで高級レストランで一緒に食事ができたのだから好印象も当たり前の話であろう。蛇足ながらこの時のメニューは、ドイツ人がこの季節に好んで食べるという白アスパラガスがメインのフルコース。ただ親指ほどのアスパラガスが五本もあったのには多少閉口した。

長距離の場合、飛び立って水平飛行に入ると機内食が出る。ファーストクラスの機内食と飲み物、特にワインは極上で、ラウンジで満腹状態になったのは失敗であった。

機内サービスのための客室乗務員も専属者が二人。今回三人の乗客に対しては多過ぎ、いつも監視されているように思えた。今の世の中、貧富の二極化が進んでいるように思えるが、過度な格差より、誰もが空の旅を楽しめる方向を目指してほしいというのが初搭乗の感想である。

旅の楽しさは非日常の体験にある。日ごろはスーパーの半額の弁当を食べていても、ビジネスラウンジを楽しむ。日常と非日常の落差から生まれるエネルギーが、あすからを前向きに生きる力となる。旅とはそんなものだと思う。

ラウンジ内のレストランで